京城新報

陰曆十月二十四日
發行兼編輯人 山下英爾
發行所 京城 京城新報社 電話六六三

論說

葉錢處分論（下）

在京城　南冥生

（三）地方經濟界恐慌の現狀

葉錢を以て唯一の財貨とし葉錢を以て生命とせる韓民は百圓の物價に對し百圓の葉錢を以てせざれば到底其取引に應せざるなり故に內地外方面に於ける葉錢の勢力は流通の減少に從ひ益々貴重せらるゝに至れり而して月に日に流出せる葉錢は滔々として防ぐに由なく今や南部各地は著しく減少の度を示すと同時に相場非常に沸騰し普通二十三割甚だしきは二十四割以上に昇り取引の困難を感ずる一面に於ては葉錢の缺乏より通商の不活潑を來たし地方經濟界に著しき變狀を示せり今最も睹易き一例を擧げて之を證せんに從來穀物商が農產物其他水產物の買收に於ては多く葉錢の前貸をなして出來秋に於て返濟せしむる習慣ありたるが本年に至り葉錢の缺乏より新貨を以て貸付をなし一方新貨の流通を計らんとするも農民は新貨を收受するを肯んせず爲めに商人は餘儀なく葉錢を四方に買ひ集めて不本意ながら漸く自己の商圈を滿たすに過ぎざるも葉錢相場沸騰の結果は彼我の取り引に非常の困難を來たし幾多の商人は空しく其取引を斷念せるもの頗る多し故に地方韓人殊に中流以下の農民は資金の供給を得るに途なく財に渇せること實に大旱の雲霓も啻ならざる可く啻に之のみならず土地買收者穀物買收者等に於ても葉錢緊縮の結果資金の活動を缺き共に彼我共に其經濟的活動を妨げられ已むなき境遇に陷りつゝあり然も地方大部の頑迷なる農商民は實に經濟的死に瀕せりと雖も自己の頑迷を蔽ふ能はず而も政府も亦之を敎導善處する方策なき今日は資を擁して煩悶せるものと資なくして呻吟せるものとの奇怪なる現象を演出しつゝあり之れ豈一時の現象なりとして不問に付すべき問題ならんや

（四）葉錢の整理●

現今韓國地方に流通する葉錢は韓國政府が官營鑄造に關する取締を充分に實行するを得ざりし結果葉錢は其大小分量を一定せず其分量に對する地金は貨幣の實價よりも常に多大に過ぐ故に現行頻りに本邦に向て輸送せられつゝあるものは地金として十七割以上の價格を有せるを以てなり而して此葉錢と新貨との交換には一種の相場を生じ假令は現行二十二割を日貨に換算せんか一個は二厘二毛に相當し若し十九割に下落せんか一厘九毛の如き奇怪なる現象を呈するに至れり從來其一高一低が經濟界を攪亂せしこと今茲に吾人の多言を要せずして既に世人の知悉せる所なり然らば此葉錢は韓國に於ける一の惡貨にして到底流通の資格なきものと云はざるべからず左れば近來政府に於ても各方面より其引上を實行しつゝあるを以て其流通の減少を見るに至れる結果は前項の如き寒心すべき經濟界の恐慌を來すに至れり吾人思ふに地方韓人の新貨に對する現狀を以てせば其大部引上迄には尙今後數年を要すべし然らば其數年間經濟界の不振は免かれ難き數なりと云はざる可らず何となれば頑民は葉錢の殘存せる間到底新貨を繼ゆるの明なきものなればなり然らば之を如何にせば可なるか只積極整理に出づるの一途あるのみ積極整理とは何ぞや即ち現在葉錢の流通禁止を斷行する之れなり之を措ては吾人の不明他に良案あるを發見する能はず

然りと雖も其流通禁止を斷行するには豫め其用意なかるべからず韓國の民度と貨幣經濟の發達如何に考慮を費やすものは積極整理の甚だ亂暴なるものあるを發見すべし少なくも國民生計の程度を考へ之に相應する處置に出でざるべからず今日の所葉錢は南方の韓民に取りては無二の財貨なればなり素より補助貨は通常本位貨幣と異なり或一定の制限內にある僅少の仕拂に對して法律上交易の媒介たるものなるを以て十分の引上を爲すの餘裕あるべきは言を俟たざるべしと雖も新貨の靑銅は五里以上のものにして之等が實際十分の活用を見る能はざるは內地貧萎せる韓民の生活狀態を觀察せしもの〻齊しく首肯する所なるべし

然らば現在葉錢の流通を禁止すると同時に一面眞個一厘の價格なる新鑄の穴錢を斟酌して流通せしめざるべからず換言すれば此新鑄葉錢の單位を定め重量と品質との一定したるものを以て計算の起點とし根據とせざる可らず斯くの如くにして始めて地方金融經濟の靜平を企圖するを得ん吾人は謹んで識者の敎を俟つ（完）

韓國農業經營談（二）

（村井銀行主村井吉兵衛氏談）

▲大農主義　余の農場は專ら米、大豆、陸稻、麻等を播植し、其の他蔬菜類は殆ど試驗せざるなく、其の結果は柑橘類を除くの外內地同樣何物にても耕作し得らる。特に余の農場附近は內地の宇都宮方面と緯度を同うし氣候同一なり。而して夏期の溫度は比較的高く耕作に都合宜し又同一溫度を長く繼續するを以て植付の時期を誤ることなく暑氣強き爲め短期日に結實するは、大農主義を取る上に於て至極有利なり。

▲農業經營の困難　韓國に於て日本人が耕地を所有し農業に從事するは何人も其の有利なるを說く所なりと雖も、余は實驗上より頗る考慮すべき問題なるを感ぜり大體より觀察し韓國に耕地を持つは地價低廉にして好利廻に當ると信ずるは大なる誤謬なり如何にも場所に依り地價廉なるものあり。されど先づ第一に考慮すべきは韓人が每年何等の苦情も唱へず年貢を納め得るや否や余は恐く不可能ならんと思ふ然らば資本を投じ相當の收利あるに拘らず豫期の目的を達すること難し、加之彼韓人は保守的にして容易に舊慣を改むること能はざる民なれば農事の改良は得て期すべからず且つ土地所有者は一人にして韓人たる小作人の多數なるに於ては如何なる者が經營するも人數の上より韓人に制せられ彼の欲する所に從ふの已むなきに至り遂に目的を遂し得べからざるに至る故に土地耕作のとたる中々以て豫想の如くに利益あるものにあらず。

▲農業經營方針　然らば如何に之を經營すべき乎先づ第一に出來得る限り廣汎なる土地を有し之を大仕掛の大農組織に依て最も經濟的に耕作せざるべからず蓋し耕地廣ければ水害を豫防する堤防を築造するにしても又閘門を設置するにしても資本を多數の面積に割當つるを得べく比較的多額の資本を要せずして完全なる組織的耕作法を施し得べきなり而して其の大耕地を水田、畑地何れにも自由に開墾し得べく又小作の關係に付ても欲する儘に經營せしむるを得て年貢の如き之を定むるに小作人の苦情なく而も容易に之を收得し得べきなり從つて地主と小作人との關係頗る圓滿に互に收利の目的を達するに無益の困難を感ずるとなき也

東洋拓殖會社の組織

桂井上兩侯を始め、東洋協會關係の貴衆兩院議員並に澁澤、淺野、安田、大倉、日比谷、朝吹、濱口、柿沼等の實業家の間に設立計畫中に屬する東洋拓殖會社に關しては十月初旬一度設立委員會を開きて協議する所あり目下頻に詳細なる組織の立案中なるが今其の要點を聞くに會社の目的は韓國に於ける既墾地未墾地の開拓整理灌水地並に道路の築造を始めとして本邦より渡航する移住農民に種子農具を給し併せて農業資金の融通をなすなど韓國の農業の整理に任ずる以外、更に韓國の一富源たる鑛物にも投資するものにして資本金は一千萬圓となし右は日韓人より募集すべきも尙ほ融通資金を得んが爲には資金の十倍位迄の債券を發行し得ることゝなすべし併し該會社の事業たるや營利的と云はんよりは寧ろ國家的の性質を有するものにして當分充分なる見込なきものなれば政府の補助なくては到底成立し得べきものにあらずと即ち會社の發行する債券に對して政府をして相當の利子補給をなさしむると同時に韓國に於て拓殖上の特權を得んと欲するものなり左れば會社の成立は本國政府のみならず韓國政府並に統監府の承認を經ざるべからざることゝ勿論にして隨て政府の意向により債券發行高の如きも或は資本額の五倍位に減ずることあるべしと桂侯は過般皇太子殿下に供奉して渡韓したるを幸ひ韓國政府並に統監府との協議を進行したるを以て同會社組織の具體的成案の發表を見るも遠からざるべしと云ふ

さくら 梅ヶ香 兩艦の設備

既報の如く今回帝國海事協會に於ては義勇艦二隻を新造中なるが第一艦をさくら丸第二艦を梅ヶ香丸と命名し此第二艦を以て關釜間連絡船に充用すべく第一艦は竣工の上大阪商船會社に於て臺灣航路に使用すべき筈なり其建造速力等造就同會より釜山商業會議所對する回答に依れば▲第一さくら丸　進水期は四十一年四月の豫定にて總噸數、船客一等三十名、二等四十二名三等二百四十名、貨物積載量約千噸、速力最強二十節通常十六節にして殊に船內の設備に意を施あり戰時は直ちに假裝巡洋艦たるを得べく機械はパーソンス回轉汽罐を備へて船体の震動を防止し汽罐は宮原式水罐を用ふ

△第二艦梅ヶ香丸　設計は略ぼさくら丸と同一なれど關釜連絡船專用として特に船客に對する設備に意を用ひ寢室、浴室、洗面所、便所等多くの改善を施し電燈、煖房器電氣送風等間然する所なく特に理髮室の設けあり、船客は一等三十三（最上甲板貴賓室を有す）貳等八十名三等三百三十名にして速力はさくら丸と同一にて關釜間航路は僅に八時間を費すのみにて航行し得べし竣工は四十年六月の豫定なりと

●李總理の病氣　總理大臣李完用氏は一昨日より病氣と稱し引籠中なるが果して實病なるや政治病なるやは記者の知る所にあらざるなり

仁川白米商況（一）

本年中

●（一）白米　一月は支那の輸出に伴ひ白米の輸出活潑となり相場は前月に比し約四十錢方下落を見しも二月となりては日本に於ける米價下落のため輸出甚だ少く唯各地へ輸送するもの多きを見るに至れり三月となりても尙輸出不引合を免れず四月中旬より下旬にかけ大連に向け輸出開け約千八百石の輸送ありたるが爲め相場は漸く保合へり今此期間に於ける穀物協會の斗量受渡高を調査するに一月中は五千四百十石二月中は三千二百二十三石三月中は二千三百九十石四月中は二千七百五十石に上れり而して米價の變動は一月中白米相場上一石十五圓八十錢下十五圓二月中上一石十六圓下一石十四圓五十錢三月中上一石十五圓下一石十三圓五十錢四月中上一石十五圓下十三圓九十錢見當なりき五月に入りては阪地の相場安樣なれども月初め當地の入荷少く且つ滿洲方面の需要あるより氣強く搆へて摩擦精米一等手撰叺込十五圓同搗放し叺込十四圓二十錢二等十三圓二十錢並十二圓五十錢見當となり阪地へは兎角不引合にて輸出なく滿洲方面へは滊船便每に約五百石を輸出すより格別下落を見ず中旬に入りては白米とも日本に向け弗々輸出あり摩擦米黃州地方へも輸出ありたれども各港よりの入荷も亦少からざれば一寸下落の見込ありしも旬末に至りては玄白米とも四五十錢方引下り望手格別之れなく只當用口の買ありしに過ぎざれども氣配は先高の見込にて玄白米とも各地より相應の廻着を見たり

十月末の仁川三銀行在庫品

仁川商業會議所報

（一）綿布綿絲類			
和金巾（廿反入）	六七個	洋金巾	一、八三九反
結纜絲	一、〇六〇個	吳服反物	二六箱
晒木綿	二疋	韓木綿	、七九五疋
同麻布	二、九一三疋	上海綿（六三斤）	七五個
（二）穀物類			
精白米	三、三三九叺	白米	七〇五叺
玄米	三、五七二叺	糯米	一、〇八一叺
籾	二、五三三俵	大麥	五六俵
小麥	五八三叺	大豆	六六叺
小豆	三八一叺	綠豆	一、三九一叺
蕎麥	三五五叺	雜穀	一、一八二叺
（三）金屬品類			
鐵板	三、〇三〇枚	薄鐵板	一四〇束
リベット	三四五罐	ナット	一三〇罐
亞鉛浪板	二、〇六五枚	石油イヂン	一台
石炭	四五〇噸		
（四）諸雜貨類			
官製煙草 刻煙	一四九個	煙草 葉卷	三〇九箱
官製煙草 口付	三三個	煙草 刻煙	五九個
官製煙草 兩切	五八個	煙草 韓葉煙	一〇六個
金口煙草（三萬本入）	三〇個	煙草 支那葉煙	三一個
砂糖	二、三三三俵	麥粉	四九五袋
素麵	一五〇個	繩叺	三、四四五個
繩	一、一五〇個	疊表	三五九束
牛皮	三、一〇〇斤	若目	八二九個
明太魚	一、九〇九個	韓紙	六九七個
硝子	二、四〇四個	洋蠟	九二箱
ライトシャツ	一八〇打	藥品	二六個
ライス紙	一個	ミシン器	三四個
眞田紐	九個	茶	一八個

文苑

宿とりて面白うなる吹雪哉
掃き寄せた落葉たゝくや夜の雨
さもあらばあれが櫻か冬木立
このわたり蛇籠も雪ぞ三十三才
新らしき釜の湯鳴りや冬牡丹
待つ人の來てから足らん火鉢哉

小說

紅のみだれ（十五）

永井櫻園

麴町區內幸町の都新聞社の裏手に當る裏通に、小門構の瀟洒と小奇麗な家がある。表札には和田垣純彥と記してあるが、主人純彥は某國の日本公使館に書記官として駐在して居るので、家には夫人篤子が二人の令孃と、純彥の兄の遺兒で山田邦男と云ふ靑年畫家を對手に下婢を召使ふて留守居をして居るのである。この山田邦男が何故此家に寄食して居るかと云ふに、和田垣純彥は山田家の次男に生れたために、和田垣家に入家して相續者となつたので、山田家は兄友彥が相續したのであつたが、友彥は壯年時代から政黨熱に浮かされて、遂には鄉黨の推す所となつて、衆議院議員の候補を爭ひ、殆ど家產を傾けるまで競爭費を使ひたる結果、失敗に終りたるが原因となつて精神に異狀を來たし、終に病院內に不幸の死を遂げた。それがため邦男は叔父なる純彥が引取つて敎育なし、山田家は少かばかりの遺產を整理して未亡人秋子が詫しい生活を因果なみつゝあるが、元來孱弱の質であつたのに、良人の病死に少なからぬ落膽して、心臟病を患ひ、僅か一年を出でずして黃泉の客となつたので、今は兩親を失ひ兄弟とても無き身の、全く和田垣家の保護の下に美術の研鑽に身を委ねて居るのである。邦男は茲年二十五で、中學を卒業すると共に美術學校の日本畫科に入つて、今も猶通學して居るが、しかし本年は卒業の筈である。幼少の頃から繪畫が好きで、中學に居る頃も繪畫は初中終好成績を得て居たので、美術學校でも日本畫では秀才と評されて、春秋二季の展覽會では何時も賞牌を受けて居る、洋畫科の生徒が巴里の美術家風を眞似て、蓬頭亂髮の上に變な帽子を頂いて、得々たる惡風俗にも染まず、異風な濃い鬚を五分刈に刈込むで、飛白の綿入に同じ羽織を被り、外出の節は折目正しい小倉袴を穿くのが例である。

時は丁度午後二時頃であつた。自分の書房と定められた六疊の一室で、火鉢を前に烟草を喫しながら傍に裝つた半身美人の塑像を眺めつゝ、頻に何か思案に耽る樣子であつた。折柄親友の松岡光三が訪れて室に入つて來た。

この松岡と云ふのも同じ美術學校の生徒で、しかも同じ級である。親しい間柄とて無遠慮に室に入つて

「奈何した、能く出掛けないで家に居るね。」

と云ひつゝ座に就くと、其と見て山田は手早く褥を進める。松岡は其に座つて、直に火鉢に手を翳す。山田は其顏を眺めて



「大層宜い顏色ぢやないか、何處かの歸りと見えるね。」

松岡は老莨を取出して火を移しつゝ

「なあに、元日二日は何處へも出ないで宅に閉籠つて居たから、昨日と今日が年頭廻りさ、行先々で引張上げられて、ヤレ屠蘇だヤン御祝儀だと勸められたので、到頭斯麽顏になつちまつた。余ぽど赤いかね。」

「あゝ隨分宜い色だよ、しかし松の內は那樣色になるやうでなくちや景氣が惡くて不可いよ。まあ緩乎して往け、私の內でも屠蘇を出させるから……。」

「いや、いくら出して呉れても今日ばかりは平に御免だ。此上食べやうものなら其こそ倒れて動けなくなつちまう。どうぞ御酒は預にして、其代りにお冷水一杯御馳走して呉れないか。」

「お冷水は宜いが、折角來て呉れたから始の御祝儀だけでも爲やうぢやないか。」

京城新報

中學校を急設せよ

現下當居留地の情勢上中學校設立の急務なる事が夙に居留民の間に提唱せられ吾人も亦之が實行の機の一日も速からんことを望み居りしが近時杳として之が設立に關し何等の消息を聞くなきは吾人の怪訝に堪へざる所とす

固より僅々二萬の人口を以て成立する民團の財源の上より見て而も將來其の創設企畫さるべき事業の頻々として多端なるものあるを以て一時に之が施設の完美を期するは吾人と雖も其の不可能なるを知らさるに非らざるも思ふに該問題の如きは現下我居留地に於ける喫緊なる問題にして、之が實行の緩急遲速は以て直接居留地の發展に關し居留民の利害に係はり延きては韓國の文明を促進し、韓人の智能を啓發する上にも關するものたるを以て、吾人は二三他の事業の經營施設をして他日に讓らしむるも一日も早く之が急設を望まざるを得ず、而して斯くして迄も尙之が財源の支途なく或は不足を告ぐるに於ては宜しく統監府に交涉談合し、以て大に之が援助補給を仰ぐの道を講せざるべからず、若し又此方法にして萬一不可能とせん乎、宜しく意を決して借款を他に起すか或は他に税を課するの道に出でんも亦敢て不可あるなし

見よ今や業を高等小學校に了へし少年者が進んで學ぶべきの校舍なく爲めに遙々笈を負ふて内地に至り、敎を地方の中學校に受くるもの頻々踵を接するに非らずや、然れども是等の子弟は幸にして内に父兄姻戚の資力を備ふるものあるを以て、亦格別の苦痛を感ぜざるならんも、中には貧家の家庭に生れ辛ふじて家計を支ゑ、敢て内地遊學の餘裕なき可憐なる子弟にありては、就くに師なく、學ぶに所なく、靑雲の志空しく挫折し、茫然として其途に迷ひ、終に淚を呑んで心にもあらぬ方向に其目的を變ずるに至る者多々あるに非ずや

要之是等の緊要問題に關しては單に多忙多端なる民團にのみ委せず宜しく統監府自ら率先して其局に當り以て一日も早く之が設立の實行を計らざるべからず

營口電報

▲徐督の電請（二十八日發）

徐總督は黑龍江に於て我租借地以外に居住する日本人非常に多きを以て至急退去を命せよと外務部に電請せり

東京電報

▲加奈太大臣謁見（二十七日發）

加奈太勞働大臣レミュー氏は明日 皇后陛下に謁見陪食仰付けらる

▲田中宮相の午餐會（同上）

田中宮内大臣は加奈太勞働大臣及同夫人を芝離宮に招待し午餐會を開けり

▲韓太子接伴委員（同上）

既報の外跡兵少佐渡邊太郎氏及び海軍少佐田中知平氏は韓國皇太子接伴委員を仰付けられたり

▲郵船の配當額（同上）

日本郵船會社の本年後半期の利益配當は一割二歩に決したり

▲前藏相の來朝（廿八日發）

前露國大藏大臣シーポフ氏及日清銀行頭取ボコチロフ氏一行は本朝入京せしが滯在は七日間の豫定にして其用件はウヰッテ氏の内命を受け極東政策の基礎を建てんとするにあり

雜報

統監邸の荷物片付

伊藤統監には之を歸韓の時に官邸中の私有品を持歸られざりしか今回は如何なる都合なるか私有品と云ふ私有品は悉皆荷作りして内地へ持歸らるゝなりと云ふ

大東學會臨御

皇太子には近衛隊の守護により明後日早朝德壽宮に太皇帝を訪問せられ之れより大東學會に臨御の旨宮内府より發表せられたるが其御通路は午前十二時金虎門出御光化門より大東學觀峴齋洞を御通過大東學會に臨御あるべしと云ふ

滿洲、宗谷歡迎協議會　仁川官民の催

今回入港すべき滿洲丸及宗谷の二艦に對し仁川官民は盛大なる歡迎會を催す内議あることは既報せしが愈々本日之れに關し民會議員及各發起人新聞記者等は民役所樓上に於て協議をなす筈にて發起人側の意見によれば兩艦下士以上を招待し日本公園にて餘興及模擬店を設け小學校雨天体操場に於て立食の宴を催し此費用を各自二圓とし不足は民團費より補塡するやに聞けるが右協議會に於て何れとも決定すべしといふ

官制發表の期

宮内府官制は別項の如く昨日を以て發布せられたるも其他一般の官制に就ては統監府及韓國政府側に於て尙ほ未だ協議の纏まり難き點ありて目下相互に於て打合せ中なればこゝ數日の後ならでは發表に至らざるべしといふ

宮内府官制發布

宮内府官制は昨日發布ありたり其種類別は左の如し

- 一宮内府官吏服務規律に關する件
- 一宮内府官等俸給令
- 一各宮事務整理所及供進所に關する件
- 一帝室會計檢査に關する件
- 一修學院に關する件
- 一社稷に關する件

●長谷川大將の統監訪問　長谷川軍司令官は昨日午前十一時統監邸を訪問し統監歸朝後暴徒鎭定に關し種々協議する處有たり

下士の受賞

從來韓國皇室警護の任に當り居りたる我陸軍下士の内左の廿七名は今回當地を引揚げ歸國する事となりたるを以て一昨日韓皇より各六等に叙勳せられ八卦章を賜はられたり

歩兵曹長城口三太、同田上武之介、同上方忠次郎、同仁科秀孝、同中原幸彦、同葛城雄、同高山郁太郎、同赤阪安藏、同鈴木榮太郎、同三枝眞藏、同西山寛尉、同渡邊壽太、同淺井祐三、同橋立金作、同鈴木愿一、同佐藤學、同倉富德三郎、同石原直、同巖本長次郎、同關岡幸三

憲兵曹長鈴木長吉、同菅原濟、同大石親良、同中島廣吉

騎兵曹長野崎佐十郎、同山浦浦介

砲兵曹長羽鳥龜松

●警部來韓說　今回官制改正の結果警視廳に於ては我警部二十名を任用することゝなり遠からず我警視廳より人撰の上渡韓せしむる由なり

●將校を招待

任京城防疫に從事したる將校を明三十日午後三時伊藤統監邸に招待すべしと

●農商工部愈移轉　農商工部が京城博覽會跡即ち大東俱樂部に移轉すべしとのことは曾て記せしが同部は愈よ近々移轉を實行することゝなり其移轉費として四千八百五十一圓を度支部に請求したりと

●憲兵派遣所

今回新設せらるゝもの左の如し

十一月二十九日開設　黃海道松禾
十二月二日開設　京畿道坡州
十一月二十八日　全羅道長興

賊の首魁を虜にす

去る廿日健兒里に暴徒約十四五名各自火繩銃を携帶して來襲し洞民に食餉を命じて西方の山中に集團せる由土民の報道に接し佐藤討伐隊は利川分派所員と力を合せ風雨を侵して急行し直に其舍營地を突きたるに賊徒は周章して潰亂し約五十名を殪し首魁金成三を虜にしたり此の賊徒は不明なるも鹵獲品は銃器二十挺彈藥約六百發衣類其他雜品數點あり熊澤隊はそれより榮川を發し直に嶺下西碧里順興郡眠吾嶺を經て永春郡に入り同郡鐵山里の東北二里の地に於て約八十名の賊團あるを偵察し此れを打つて逃走せしめたるが此際賊は乘馬一頭を洞民に預けて西方へ退去せり

蠶室里の暴徒（詳報）

前號に暴徒京城附近に現はると題し記載せる蠶室里に於て日本人殺害せられたる後報を聞くに去る二十六日午後七時頃約二十名の暴徒各自銃器を携へ蠶室里の煙草商品龍出方に闖入し昨年二月頃より同人方別室を借り賣藥を營む千葉縣香取郡萬歲村の管佐原周三（三十）を銃殺し同人の手箪笥一個を掠奪すると同時に品龍出の家族婦人に向ひ品龍出は日本人を居住せしめたる大罪人により此の一家を燒き拂ふ手筈なるも他に延燒の恐れあるによりこれを止め着類一切及び金員を掠奪する旨を告げ同人方の着類一切（見積百圓）現金五十圓を掠奪し同家を[illegible]

ゝ水原方面に向け出發せりと

泰化輿方面賊情

慶尙北道泰化輿を襲擊せし賊徒討伐のため在榮川守備隊は二方面に分れ去る二十五日川村特務曹長は下士以下二十八名を率ひ泰化方面に向ひ翌二十六日熊澤少尉は下士以下二十四名を率ひ順北方面に向ひ出發し廿八日榮川に歸着せしが泰化方面に於ける賊情を聞くに川村隊は行々偵察を遂げ泰化嶺を過ぎ三陟郡に入り同郡黃地里方面を偵知し二十八日夜之れを襲擊し約二十名を殪し旌善方面に潰走せしめたり

暴徒の歸順

鎭衛隊解隊してより匪徒の群に加入したる者五名は各武器彈丸を携帶し去る十六日江原道原州に於て歸順し來りたるを以て分派所狩野警部は取調の上原州守備隊に引渡したり

元一等卒金九用（二十）元上等兵咸大云（三十）同嚴石煥（二十）同李太福（二十）元一等計手强大炯（三十）

●海州郵便線回復

海州を起點とせる附近の郵便線は暴徒の爲めに杜絶されありしが今回愈々各護衛を附し開通するに至れりと

仁川三銀行重役會議

仁川三銀行に於て本大阪朝鮮貿易組合より通牒に係る當港輸出韓米荷爲替割引額實行に關し（八掛半實行）倉庫會社より交涉に係かる倉庫貸付の件に關し昨夜各重役の會議ありたる筈なるが今晩も引續き審議する由

●仁川斗量場管理再審議　仁川斗量場を民團より穀物協會へ管理を委托する事に決定せるは既報せしが其後協會側に於ては右決定に對し再審議を請願したるを以て明日委員會を開き再議をなす筈

●叙任辭令（十一月二十五日）

任副理事官（高等官七等）　副領事　池込龍一

●仁川工事部主任轉任　仁川稅關工事部主任たりし遠藤技師は釜山稅關工事部主任に轉任したることは既報の如くなるが昨日山東丸にて赴任したり

生產及び分配狀況（一）（仁川商業會議所調査）

重要輸出入品　當港に於ける重要輸出入品の商況は詳細之を說明せり今此等輸出入重要品に就て其生產及貿易の情況並に之に附帶する諸種の事項を擧げ序を逐つて說明するに於ては多少參考に資する所なきにあらざるべし依て以下に之を叙述し本季報告中に之を加ゑん

第一、米

（イ）當港輸出米の產地及生產狀況

韓國は地味米作に適し八道到る處米を產せざるの地なしと雖も全羅慶尙の二道を以て之れが冠たるものとし忠淸黃海京畿の三道之に次ぎ平安江原咸鏡の三道は地味磽确未だ開墾を經ざるの地多きを以て其產出は遙かに僅少なり而して慶尙道洛東江の兩岸至に至つては實に沃野千里に連る豐腴の地にして米質も亦頗る可なりと云へり韓國に於ける米の產出高は詳細なる統計なきを以て其正確なるを知るを得ずと雖も當時韓國政府に於て調査したる記錄に依れは一ケ年約一千五百万石許なるべしと云へり又韓國故老の言に依れは八道中產出の比例は全羅慶尙の二道は百分の四十忠淸黃海京畿の三道は百分の四十平安江原咸鏡の三道は百分の十三に相當るへしと云へり

韓國財政顧問本部に於ては各道の產米豫想額を調査し本年三月左の如く公表せり

道名	水田反別	玄米產額	一反步當收穫量
京畿	四五、一三三町五	二七〇、八〇一石〇〇	石、六〇〇
忠淸南	六四、一九三反〇	三八五、一五八、〇〇	、六〇〇
忠淸北	三四、五三四、五	二〇七、二〇七、〇〇	、六〇〇
全羅南	一三八、九一三、〇	一三八九、一三〇、〇〇	一、〇〇〇
全羅北	八八、五六九、〇	八八五、六九〇、〇〇	一、〇〇〇
慶尙南	八一、三三八、〇	四八八、〇二八、〇〇	、六〇〇
同北	一〇三、八六二、二	六二三、一七三、二〇	、六〇〇
黃海	五七、七三三、二	四三二、九九九、〇〇	、七五〇
江原	一〇、六三九、四	一〇六、三九四、〇〇	一、〇〇〇
平安南	三一、七三九、四	一九〇、四三六、四〇	、六〇〇
平安北	三一、七二七、五	一五八、六三七、五〇	、五〇〇
咸鏡南	二一、九九九、六	一〇九、九九八、〇〇	、五〇〇
咸鏡北	一五、三八七、五	七六、九三七、五〇	、五〇〇
計	七五五、七四八、〇	五四一一、七三三、七〇	、七三三

前記顧問本部の米產豫想額は蓋し韓國米產地に於ける豐收の年を標準とせしもの如く又耕作反別の如きも十分に見積られたるの感あり平年作又は平年作以下なりと見込まるゝときは此想像額を其見込に應じて增減せざるべからず

（ロ）米集產地方

以上韓國產米中全羅道珍島以南及慶尙南道のものは多く釜山港より輸出せられ仁川港より輸出せらるゝものは全羅、忠淸、京畿、黃海及び平安道南北の產米なりとす而して仁川港への積出場所は全羅道群山を第一とし而して古今浦之に次ぎ平安黃海二道に於ては保安山、鐵島の地を多しとす

仁釜間乘客運賃值上（目下交涉中は誤り）

仁川本邦間の乘客流船賃の引上げをなすべきやの風說をなすものあるも右は誤りにて其事實は元郵船會社が本邦より北淸行の運賃を值上げしたるに獨り仁川釜山間の運賃低廉にして不權衡なるため仁釜間賃錢值上を商船會社に交涉を重ね協定の上去十五日より仁釜間の賃錢を左の如く值上げしたるものなりと

	一等	二等	三等
元運賃	一〇、〇〇	七、〇〇	值上
值上	一二、〇〇	八、〇〇	なし

病兵軍夫の送還

仁川陸軍運輸部にては本日出帆の馬山丸に病兵及軍夫四十三名便乘せしめ宇品本部に送還する筈なり

●民團豫算編制　京城居留民團役所の來年度豫算は目下調査中なるが十二月中には完成する筈なり

●第二小學校敷地買收　京城日本人第二小學校を南大門内に新設することは前號に報せし如くなるが同校敷地は現今保稅倉庫所在地にて坪數三千坪あり一萬五千圓にて買收したりと云ふ

●戶番札　京城に於ける本邦人所在地の新町及び現在各町の戶番標札は昨日より掲示することゝなりたり

●公園娛樂所の設置　倭城臺公園には公園散策者の爲め休憩所として各所の四阿屋の設置ありしのみにて娛樂所を兼ねたるものなかりしが今回博覽會協贊會員休憩所として設立したる建物を同公園に移し之れに疊を敷き碁將棋等を備へ置き兼て閉鎖し置き日曜の如き休日に之を開放し各遊覽者の用に供することゝなす由同建物は六疊敷の坪數あれば一般遊覽者に至極便宜ならん

●住永ヒデ子の辭職　庚子紀念幼稚園保姆助手住永ヒデ子は今回家事の都合に依り辭職したり同女は明治三十六年六月就職以來兒童保育に從事し精勤の功少らざれば居留民團よりは同女に對し慰勞金を贈る筈也

●山東丸の積荷　昨日出帆せし山東丸は神戶揚大豆六百二十叺長崎揚三千五百叺大阪揚千二百五十下關揚二百叺及神戶揚糠四百五十叺大阪揚玄米千五百叺を積み門に向り

●間島の鑛業　北間島の北端天寶山銀鑛の經營は目下元露淸學校長たりし中野次郎氏以下十餘名の邦人と某淸國人との合同出資に依れるものなるが元來同鑛山は往年某淸人の所有たりしとき貨物となりて上海方面においてその外人と交涉商議中なりし際に圖らずも日露戰役起り竟に交涉中止の姿となり之がために持主なる淸人は非常の窮乏に陷り居りたるを前記中野氏等の聞く所となり當初三百万圓と稱せしを交涉の結果僅少の價格を以て鑛主權を中野氏等に讓り渡すと共に利益折半に約定成立し新たに中和公司なる一商社を組織するに至しなるが同鑛は鑛脈豐富にて將來收益見込充分也と

群山だより　小鞋生

▲着々と進步發展の步を進めつゝある當地の昨今は昨年に比して著るしき差有之且人口の增加に連れ之が自治制の治動も亦大に見るべきもの有之候

▲現に道路工事の如きも近者はメキメキと進捗し最早幾干の期日も要せず立派なる道路の出來上ることにて居留民一同は非常なる喜びに候

▲又通信機關もナカナカに完美し電話の增設等も著るしく候、今之に關し當局の意見を聽くに、本年度電話の增設は特急架設の者に限り開通せしむる由なるも來年度に於ては可成的多數の普通加入者を增設する方針なる由而して來年度の增設工事に要する器械及材料等は豫め準備の必要あれば自然加入申込者數を豫知する必要あるを以て既に申込みたる者の外四十一年度中に電話架設希望の向は此際取急ぎ加入申込をなし置かざれば或は來年度の豫定數に洩れて其架設を翌々年度に繰延らるべしとの事に候が先づ以て當地の爲め誠に結構の次第と存候

▲先達當地對岸の藍浦に暴徒起り當地より守備除驅せ向ひしが右暴動といふは過日公州觀察使が藍浦在住の良民を暴徒に關係あるものとして公州に拘囚したるを憤り同地韓人が反抗運動をなしたるものにて例の暴徒騷ぎにあらざりし由目下同地には本邦商人男五人女三人ありて極めて平穩の狀態に有之候

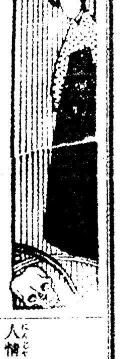
▲增兵派遣の請願に鐵道運動を兼ねて上京の筈なりし上京委員保高正記氏は最近の便船にていよいよ上京の由に候

▲從來當地には劇場らしき劇場無之りしが這回朝鮮町に建築中なる群山座は規模なかなか宏大なるものにて本月中には落成の由に候が來月中旬には大阪より諸道具据付の爲め其の道に委はしき人來群し一切の設備を了すべしとの話に候

▲治外法權▼

正一品大勳太子大師いゝいゝ輔國大匡輔皇族正二位大勳位公爵統監米國名譽法學博士伊藤博文公は今度生捕つた名虎の子を連れて來月五日を以て歸朝せらるゝとは目下坊間の評判である不敬にも事を欠いた英親王を虎の子を取逃いたる市中の傳說には噴飯を禁じ得ぬのである▲嚮には義和宮をた世話なされて宮の前途未だ明ならざるに、はやまた英親王のた世話とは御老体嘸た骨が折れることであろう、之から公も一人の孫を得られた積で一切の俗事を抛ち幼君のたもりに全力を傾け、見事幼君の前途を見奉るのた覺悟こそ肝要と存するのである▲ソレは扨置き我輩の心配で溜らぬのは公の今度の御歸朝である、公の御歸朝、夫は珍しい事ではないが而し今度の御歸朝は所謂一時的ではなくて永久的例はないゝゝ而るに何事ぞ今度と云今度は目下御歸朝の時は在官邸の私有品を持歸られたになるの恐れがあるからである●●●▲公は今迄盛に私有品を荷造りして正に積出さんとせられて居る、其狀恰も下世話で言引越の騷である、來春早々御歸任のた方か此度に限つて荷片付とはソレは少々御念が入過ぎる樣である▲公の今度の御歸朝が一時的なるか將永久的なるかは韓政治屋さん許りで出すことを吝んで狐鼠々々荷拵してた立の後で宿屋の亭主を唖然たらしむるの事を異似らるの必要はないのである▲今日の韓國は公のた蔭で公を要せぬまでに太平無事に治りつゝあるのである、之は法權子の一家言にあらずして所謂列國の認むるところである▲公の眼中に置くに足らさる居留民の發展や暴徒の始末は公を煩はさずとも出來るのである、公が幼君のたもりを撰ばれたのはソレは御自身を良く知ると云物である あまりあと心配をなされずして早々た引揚

（第三種郵便物認可）　明治四十年十一月二十九日　京城新報　（金曜日）　第十七號　（三）



「無限の熱血」を讀む（三）　錦陵生

身は斯の如き微賤なる職務に從事しながら一方に於ては父母を慰め弟妹を勵まし傍ら螢雪の苦學に怠りなかりし君は眞意の在る所金石も亦貫くの譬への如く今は相當に智を具へ文を草するに至りたるを以て青雲の志必ず手に唾して俟べしとなし雄心勃々禁ずる能はず期して他日の成効を夢み居りしに折柄君が二十才の齡を迎へ徵兵の大義務を眼前に控ふに逢ふや君私かに所以らく若し果して之が身體の檢査に合格せんか制規に從ひ現役に服せざるべからず去れば三ケ年間は到底兩親を省みる能はざるは勿論一家は益々飢寒の慘狀に陷るべし去れど國制は私情を以て避くべきに非ず若かず同じく兵役に服する以上は何分たりとも之が上席に班伍するの得策なるを思ひ其の年四月陸軍教導團の生徒募集を耳にしければ直ちに受驗せしに幸ひにも合格の榮を得しかば十二月一日君は已むなくも饑に叫び貧に塞れし一家を殘し前に二歩後に一歩の悲痛なる胸を制しつゝ飄然として山河雲遠き下總の國にと赴きにき

斯くして君は首尾好くも入團の志を遂げしと雖も故山を偲ぶ心は夢寐胸裡を離れず殊に雨の晨雨の夕は兩親弟妹のいぶせき起居を追懷し暗泣嗚咽一夜の夢を其の冷かなる伏床に泣き明せしこと屢々なりき而して其間君は一週間に僅か二十錢宛給與さるゝ手當の一半は必ず父に酒代として送金し其餘は一厘も浪費せず貯蓄し以て他日皈鄕の際一家を助くるの資とはなしたり、烏兎早々歲月に關守なく君が入團以來滿二年間の涙の歷史は爰に一先づ其頁を了はり廿二才の春目出度卒業證書を握ると同時に陸軍々曹に任ぜられ故鄕なる熊本師團に任命さるゝ事となりしより君が心の悅びは譬ふるに物なく匆皇行李を收め故鄕の模樣及兩親弟妹の有樣等を胸に描きつゝ歸鄕の途に就きたり今其の光景の一端を錄すれば

校室の東隅に低き下屋あり其室內を窺へば四疊半敷にして据付たる疊は破れ東の方に一の小さ窓と戶口の一ヶ所あるのみにして室內薄暗く空氣流通惡しく而して室內北の一隅には破蒲團一枚南の片隅には缺齒釜一個あるのみ疊の中央に小き德利と小皿に菜漬の少々入れある傍に父は顏色憔悴補綴の弊袍に纒て其儘臥し華胥の鄕に遊べる者の如く其側に末の妹は玩具を弄び居りしを以て予は先づ內に入りて妹の名を呼べども予軍服を着し居りし故か曾て馴れ〳〵しき動作ありしにも似ず密に父を搖り起せり去れば父は予を顧みて飛立ん計りに喜び早く歸りし一語より外は吃々口籠りて只喜悅の涙ぐめる兩眼より霽れし頰に傳はるのみ母は間もなく敝れたる單衣一枚を纒ひ右手に薪萱把左に米袋と野菜とを携へて歸り來り予の姿を見て腰も脫かさんばかりに悅び予の挨拶するをも待たでおゝ遠くわりしとの一言後は遂て〳〵箒を執らるゝさま實に千萬無量の情に堪へ其樣何とも筆に述べ盡し難かりき

短き契長き仕へ

忠婢矢後みの

人情は紙よりも薄い世の中、貞操などいふ事トント流行らぬ昨今に、夫病歿後の三十七年間操の一字を金科玉條として一意唯ゝ冥福を祈ると共に主家に仕へて過ち一度した事もなく忠婢矢後みのゝ名を矯風會に依て傳へらるゝに至つた婦人のかゞみの一人を紹介する

みの女は今年取て五十七歲の老媼である、五龍園の本家浮田桂造氏の家に仕へて實に三代の夫人を補佐した、適偶人がその仕へ振りの篤實なのを稱へると「妾共は人樣の事で何がなた役に立つ事を勤める爲に生れて參つたものと信じて居ります、女の事で御座いまするもの、夫を持ますれば夫の爲に勤めまするのが當然で、その夫に死別れまして御奉公を致す以上は主人の爲に出來るだけの働きを致すのは當り前で御座います」と答へて尠しも吾が顏をした事がない、自ら歸する處の運命を知て瞭然として大悟して居る處は哀れな點がある「妾の夫は奧野久兵衛と申し浮田さまが媒人をして下さつたので、その以前から浮田樣に御奉公をして居ました、嫁きましたのは二十四の年齡の九月で御座いましたが翌年の十一月には夫は病死致しました」眞箇に短かい契である、けれどもみの女はこの一年餘りの夫婦の契りを實に永久の離れ難い契りと信じて、夫の沒後は誰が何と勸めても再び人の妻とはならず女は一度嫁せば決して二度と夫を持つべきものでないといふ女大學の敎へを固く守つて遂に今日に及んだで再び舊主の浮田方へ戾つた時にも「違つた夫を持ぬと同樣に變つた御主人をも持つ氣はありませぬ、一生をれ宅の御厄介になつて死ぬるまで御奉公をさせて下さい」と當時の夫人の前で誓つた言葉は金錢よりも固い爾來不幸にも同家は二人迄夫人が改まつたがみの女だけは更に改まらずに女盛りの三十を流し元に送て分別盛りの四十を臺所に迎へ五十の阪に差かゝつても朝に水掃除の雜巾を離さず夕に裁縫の針を握つて今年既に五十七の年頃となる迄猶且午前四時より午後十一時迄一日十八時間の勤務を怠らぬ、自ら信ずる處強くして義務を重んずる念が深からぬ者に何うして這麼眞似が出來やうぞ夫に仕へて貞なる者果して主に仕へて又忠なりであつた

されば浮田家では前々からみの女を八人の女中取締とするのみならず店員七名製藥工數名の監督となし家人の待遇を與へて居る一日此みの女が居なければ家中は大騷ぎ命令二途に出で遂に統一を計る事が出來ぬ現狀、女ながらに立派な浮田家の大黑柱となつた、生れは嘉永五年一月二十九日、本籍は西區南堀江三番丁十八番地にある今は父母兄弟悉く逝てポンの一人ポッチ、願ふ處は死後夫の傍に行て仕へたいといふ、澆季の世には珍らしい女今の多くの婦人にその爪の一片でも煎ちたいと思つてかくは記したのだ

平壤の虎患者減少

韓國に於ける虎列剌は平壤に於て最も猖獗を極めたりしが去る二十七日其筋に於て調査したる處によれば目下の患者は僅に日本人五名韓人五名に減少したりと

●傳染病患者　例の西大門鐵道管理局官舍に住する靜岡縣士族北條雄太郎は過日來臥床中なりしが昨日腸窒扶斯と診斷せられたり

●矯風會演說會　本日午後七時半より旭町二丁目名古屋城に於て矯風會演說會を催す筈なるが其演題は左の如し

害毒論　培材學堂敎師　山口照平

社會の健康　鐵道青年會幹事　今井熊次郎

●博覽會の看守盜（詳報）　前號に略記せし博覽會の看守盜に關し伺は聞く所によれば被害品ダイヤモンド入十八金指環二個（代五百六十圓）は當地本町二丁目雜貨商辻屋の出品に係るものにて去る十七日其の看守人長屋某女が紛失したることを氣付き其旨事務所へ届出たるより警察署の手をかりて密々詮議中の處其の加害者は看守人ならんとの風評ありしも某は品行方正にして斯る罪惡をなすものとも思はれず伺は種々搜索中なるを神ならぬ身の犯罪人は夫れとも知らず金の必要に迫りしものから明治町一丁目の自轉車營業吉川嘉右衛門方に持ち行き金百三十圓を借りたるがこの事早くも其の筋の耳に入りいよ〳〵取調の結果同會守衛なる龍山通青坡居住岐阜縣人說田五十二（五十二）が同南山町四丁目居住宮城縣平民熊谷謙治（三十）と共謀し十六日の夜宿直を幸ひに竊取したることを自白したりといふ

ポッケットに入れらる洋傘

巴里最新流行の洋傘は、如何な形のものであるか、それは小く折りたゝんで一寸した箱に入れ、大抵の上衣のポッケットに入られ得るのが一番流行するこの種の洋傘の柄や骨などは何度も折れたり、たゝまりたりするやうに出來て居る、至極便利であろう。

●掏摸捕へらる　一昨二十七日當地南大門外より龍山に至る電車中に於て伏見新一郎なるもの風呂敷包と折鞄とをすり取られしが其の賊は自稱石川縣人越內賢藏（二十）なること發覺し昨日牢獄へ投ぜられたり

一山一二拍子の煩悶

仁川藝者の中でたきやんでオチョコチョイで不別嬪てふ噂れ高き一山本店の一二拍子は粹樣御存じの通りたが此拍子本年夏頃より或受負師の手代鈴木某に血道をあげ衣裳から頭のもの果ては化粧道具の數々ならで七屋に叩き込み入れ揚げた其揚句朋輩衆には不義理の借財親方よりは藝者部屋をたゝき拂はれて女中部屋に禁錮の大所刑、夫れも一再ならず四度六度と度重なるも本人には一向に利き目なく鈴木を思ふ情熱の益々募り行くのみなりけるが詰縱つて仁川は公園地通りに假の住居をなす奈良縣某商店の馬鹿息子山田總吉（二十）は惡朋友を誘ふて親の金二千五百圓を引出し仁川に飛んで來て前記の所に潛伏し表面は出鱈目の僞名をなし明暮れ花柳界を荒れ廻り殊に此一二に惚け込み年にも似合はぬ大盡振りに早くも役所の目に止り此奴狂散なと警察へ引張り出されたが取調の結果前記の次第と判明し只着仁屆を怠りし料に依り正式裁判に廻されたが此事早くも京仁各新聞に掲載された所一二は此事鈴木に知られなば大變と淺慮にも先づ一山に來た新聞を其のまゝ引裂き直ちに鈴木の家に駈け付けてあらゆる新聞をそつと持歸りこれで安心とホット一息其日は何事もなく過したが一方鈴木は其日京城に來り右新聞を目に止めたのでサー起るまい事か、一二の不貞腐れめたれを袖にしてあんな馬鹿者に關係したと早々手強い談判狀を一二に宛てたが一二は此手紙を見よりワッと其場に泣き頽れ「年の暮れに迫つたので色々な入費も嵩み殊に鈴木さんには衣裝の一枚も上げようと思ばこそあんな馬鹿殿を相手にしたものを夫も推量すればこそこんな無情な手紙とは……」となだむる女中に愚痴たら〳〵女中は思はぬ惚ろけの毒に當てられて何と返事のしようもなく引下りたりとは面白くもない艷種なり

●又しても灸　京城三好町一丁目青物商大阪府平民杉村賀藏は街路に空箱及び桶を亂雜し通行の妨害をなしたるにより科料金二十錢に處せられたり

●明月館の開店披露　韓國唯一の料理店と呼ばれたる明月館も博覽會に出店を開きて韓人側に少なからず便宜を與へたるは好かりしもこれが爲に幾許の損失を來し先頃來一時閉館せしも一進會員の盡力によりて更に再興することゝなり近頃又々開店して披露をなしたり

●正誤　昨紙殖產會社の支店設置とあるは倉庫會社の誤りにて右は通信電話の錯誤より出でたるものに付正誤す

●本町座の乳姉妹再演　本町座北村一座の演劇は毎夜大好評を博し居れるが去る二十二日に演じたる乳姉妹の如きは最も好評なりしを以て本日も又た乳姉妹を演ずることゝし其役割は二十二日のものと異同なきを以て略することゝなしたり

●塵芥箱　本町座開演の北村座長が毎夜の口演は丸切り活版摺り的の樣だモ少し改良してはドウだ（芝居狂）▲十月一日の火災以來花月は客より平身低頭して登らにや駄目だ（平民）▲南山町森勝の前に露店のうどんぜんざい屋の夫婦は仲々感心だ毎夜此の寒いのに二時三時までも勉強して居る（感心生）▲過日本町座にて棧敷の二に陣取りて居た某ドクトルは藝妓否な淫賣婦を伴れて居つたがあれでは前途が思ひやられる（善哉生）▲數月來大和町の某官舍より一人の女が朝歸りするのを毎朝見るが此女は掬翠樓の藝妓と僻目で見たが何の用あつての歸りか知らん（閑度子）▲本町の道路改築は早くやつてもらはんけりや甚だ困る通行者の大迷惑ばかりではない先月の如きは車上から搖り落されスンデのこと大怪我をやる筈だつた又た商店の前なぞ土塊を堆積してあるのを見るが此等の商店も嘸ぞ困ることだらうと思ふ（同情生）▲高等小學校生徒二學生に對し敎師が酷罰を施したとかの投書ありたるが若し事實とすれば甚だ怪しからぬことだ先生方にはヨモやそんなことはあるまい何かの中傷ではあるまいか（塵芥箱小僧）




化粧小間物
京城本町四丁目
河村百貨號
電話七四六番


히이로
ヒーロー
ゴールドフヒッシュ

